
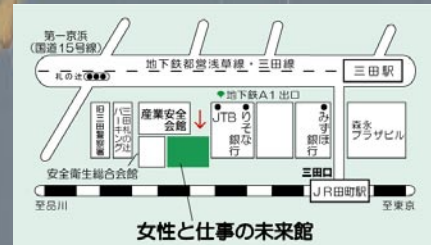


## 気候研究の応用に関するシンポジウム — 社会と共に目指すイノベーション —

**入場  
無料**

※事前にお申込み  
ください

- 主催：独立行政法人海洋研究開発機構 
- 開催日時：平成21年1月28日（水）10:00～18:00（9:30 開場）
- 開催場所：女性と仕事の未来館 4F ホール  
（東京都港区芝5-35-3）
- 入場料：無料
- 参加申込み：事前に JAMSTEC ウェブサイトのイベント情報  
または下記 URL からお申し込みください。  
<http://www.jamstec.go.jp/j/apl/sympo200901/>



JR田町駅三田口（西口）から徒歩3分  
地下鉄（都営浅草線、都営三田線）  
三田駅 A1出口から徒歩1分

- プログラム：（日英同時通訳付き）
- 10:00～10:05 開会挨拶 今脇資郎（海洋研究開発機構 執行役）
- 10:05～10:10 来賓挨拶 生川浩史（文部科学省 海洋地球課長）
- 【第1セッション（進行役：山形俊男）—気候予測とその社会応用に向けて】**
- 10:10～10:45 意思決定のための気候情報  
S.Zebiak（国際気候予測研究所 (IRI) 所長、米国）
- 10:45～11:20 APEC 気候ネットワークを通じた気候情報と技術の共有  
J.Lee（APEC 気候センター (APCC) 所長、韓国）
- 11:20～11:55 気候モデル及び季節予測に関するイタリアの取り組み  
A. Navarra（地中海気候センター (CMCC) 所長、イタリア）
- （11:55～13:20 昼休み）
- 【第2セッション（進行役：A. Navarra）—予測可能性 / モデル予測 / 観測】**
- 13:20～13:45 社会応用を目指した気候研究における海洋の役割  
S. Behera（海洋研究開発機構アプリケーションラボ）
- 13:45～14:10 数値モデルによる季節から数年先の気候予測  
— エルニーニョ及びインド洋ダイポールの発生予測  
J. Luo（海洋研究開発機構アプリケーションラボ）
- 14:10～14:35 社会への応用研究のための雲解像モデル  
高橋桂子（海洋研究開発機構アプリケーションラボ）
- 14:35～15:00 熱帯海洋気候観測システム —その役割と応用研究  
安藤健太郎（海洋研究開発機構アプリケーションラボ）
- （15:00～15:20 休憩）
- 【第3セッション（進行役：佐久間弘文）—社会とのイノベーション創出】**
- 15:20～15:50 気候情報の人々への伝達—APCC の役割  
H. Saji（アジア太平洋気候センター (APCC)、韓国）
- 15:50～16:20 気候リスクの管理—アジアを例として  
E. Conrad（国際気候予測研究所 (IRI)、米国）
- 16:20～16:45 マスメディア—天気・気候予報の解説者として公益にどう関わるか  
V. Kurian（Business Line、インド）
- 16:45～17:10 農業経営者—オーストラリア南東部の農業に及ぼすインド洋・太平洋の気候の影響  
J. Welsh（J&B Herefords、オーストラリア）
- 17:10～17:35 インド洋に焦点をおいた、気候に関する NOAA の全球海洋観測  
—社会ニーズに応える視点から  
S. Thurston（米国海洋大気庁 (NOAA)、米国）
- 17:35～17:55 パネルディスカッション（全講演者及び山形俊男）
- 17:55～18:00 閉会挨拶 山形俊男（海洋研究開発機構アプリケーションラボ ラボヘッド）

※演題名は変更になる場合があります。

- お問い合わせ先：独立行政法人海洋研究開発機構 経営企画室 平田、山科  
TEL:046-867-9226 E-mail: [apl@jamstec.go.jp](mailto:apl@jamstec.go.jp)